

『商船三井グループ 環境ビジョン2.0』

パリ協定発効以来、高まり続ける温暖化防止へ向けた機運の中、IMO（国際海事機関）は国際海運の温室効果ガス（GHG）削減目標やその実現のための対策等を包括的に定める「GHG削減戦略」を2018年4月に採択。単一セクターで全世界的に今世紀中のGHG排出ゼロを目指すことに世界で初めてコミットしたものの。当社は2017年4月に策定した「環境ビジョン2030」に代え、IMO目標の達成へ向けたコミットメントをより明確化した『商船三井グループ 環境ビジョン2.0』をこのたび制定。

【商船三井グループ 環境ビジョン2.0】

商船三井グループは、環境課題に向き合い、グループの総力を結集して、持続可能なネットゼロGHGエミッションを実現します。

中長期 数値目標

2030年に持続可能なネットゼロGHGエミッション外航船を創出します。

2050年に船からのGHG排出総量を2008年比50%削減します。

今世紀中のできる限り早期にネットゼロGHGエミッションを実現します。

『商船三井グループ 環境ビジョン2.0』

従来「環境ビジョン2030」（2017年策定）で掲げていた削減目標

「当社グループは輸送単位あたりの温室効果ガス排出を2014年度比で2030年までに25%、2050年までに50%、削減することを目標とします。」（効率改善目標）



「商船三井グループ 環境ビジョン2.0」にて新たに掲げる削減目標

パリ協定、そしてIMOのGHG削減目標レベルを確実に達成するために
より踏み込んだ具体的目標を設定

「ネット・ゼロ外航船」の実現	「2030年に持続可能なネットゼロGHGエミッション外航船を創出します。」
2050年 総量目標の設定	「2050年に船からのGHG排出総量を2008年比50%削減します。」
グループ全体でのネット・ゼロ目標	「今世紀中のできる限り早期にネットゼロGHGエミッションを実現します。」

『商船三井グループ 環境ビジョン2.0』

環境ビジョン2.0で掲げる目標達成に向けた戦略

クリーン代替燃料の導入：LNG燃料の更なる推進＋
その次を担う次世代ゼロ・エミッション燃料の導入

省エネ技術の導入：ウィンドチャレンジャーの実機搭載、
その他の新技術の導入

効率運航の深度化：運航状況のリアルタイム・モニタリン
グによる燃費効率改善＋運航費削減

ネットゼロを可能にするビジネスモデル構築：業界団体、
関係省庁を通じた公的規制、ルール作りへの積極関与

低炭素事業拡大：FSRU、LNG発電船、再エネ関連に
加え水素等の次世代燃料領域における事業開発

